

【新型コロナウイルス感染症対策】徳林寺における生活支援物資等ニーズまとめ（2020.6.8現在）

現在、徳林寺には新型コロナウイルスの影響で住居を失った方々が45名ほど避難されており、生活に必要な物資等が不足しております。ご家庭にご不要な物がありましたら、下記、ご参考の上ご提供いただけますと幸いです。

※必要個数が書いていないものは、たくさん必要としているものです。

1) 感染防止対策用品 必要個数

- 手洗い用石鹸
- マスク（ふつうサイズ）

2) 日用品 必要個数

- ハンガ
- シャンプー
- リンス
- ボディシャンプー/石鹸
- スリッパ/サンダル（女性用22～25cm） 10
- スリッパ/サンダル（男性用25～28cm） 20
- トイレtp用ペーパー
- ティッシュペーパー
- 洗濯用洗剤
- 虫除けグッズ（火を使わない物）
- 虫除けスプレー
- 運動靴（男性用25～28cm） 20
- サッカーボール 2

3) 台所用品 必要個数

- 食器洗い用洗剤
- フライパン（大） 3
- 鍋（大） 3

4) 食料品 必要個数

- 調理用油
- 調味料各種（塩、胡椒等）
- ペットボトルの水（量は問わず）
- 肉・魚類の缶詰（調理不要なもの）

5) 医薬品 必要個数

- 絆創膏
- 消毒液
- 頭痛薬
- 腹痛薬
- 風邪薬
- 電子体温計

6) 家電製品 必要個数

- 炊飯器（大） 2
- 電子レンジ 2
- 冷蔵庫 1
- 洗濯機 1
- 扇風機 7
- 延長コード（複数口タップ） 5

7) 寄付金（用途は以下の通り） 必要個数

- 水光熱費
- 交通費

<お願い>

- ・事前にご提供可能な物と個数をお知らせください。
- ・ここに記載されていない物をご提供くださる際は、事前にご相談ください。
- ・原則、持ち込みまたは「元払い」での郵送でお願い致します。必要に応じて取りに伺います。
- ・状況に応じて必要な物と個数が変わりますので、受け取れない場合があることをご了承ください。
- ・その他、ご不明な点等ありましたらご連絡ください。

相生山徳林寺 住職：高岡 秀暢

〒468-0037 名古屋市天白区天白町野並相生28-340

TEL 052-896-1606 FAX 052-896-1607

E-mail gc2h-tkok@asahi-net.or.jp

コロナでお困りの皆さま

持続化給付金 対象者か確認しませんか？



Money Forward
クラウド会計
クラウド確定申告
いますぐ確認 >

みなさんの動画・写真の
投稿はコチラから！

「帰りたいけど帰れない」名古屋の寺に続々とベトナム人が... コロナ禍で窮地の外国人に救いの手

報道局

新型コロナ関連

愛知

特集

2020/05/21 10:00



不要不急の外出自粛が全国に呼びかけられているなか、各地から人々が集まるという寺が名古屋にあります。その背景には切実な事情がありました。

名古屋市天白区にある寺「徳林寺」。



「問題が解決するまでね、しばらくみなさん我慢して。コロナの問題はやっかいでちゃんとみんな距離を持つ」(徳林寺 住職 高岡秀暢さん)

新型コロナウイルスについて話す住職の横には、通訳をする人の姿が。

実は話を聞いていたのはベトナム人たち。ある理由でここに集まっていました。



「仕事ない。北海道から来ました。私の仕事はクリーニングです」

「私は滋賀県です。仕事は縫製です」

「沖縄から来ました。仕事は建設業でした。技能実習生です」

「横浜市に住んでいました。仕事はITです」(ベトナム人の人たち)

新型コロナウイルスによる日本経済の悪化が原因で仕事を失い、突然収入はゼロに。家賃も払えず住む場所を失い、ここにたどり着いたといいます。

「帰りたいけど、お金がありません」

「飛行機自体が飛んでいないので、チケットが買えても帰れないんです」(ベトナム人の人たち)

ベトナム政府は、感染拡大を防止するために現在、海外に住むベトナム人の入国を制限。帰りたくても帰ることができなくなっているのです。

彼らが頼ったのが、ベトナムから来日して19年となる在東海ベトナム人協会・副会長のユン・テイ・トゥイ・ユンさん。

名古屋で人材派遣などの会社をする一方、ベトナム人協会の副会長を務めています。



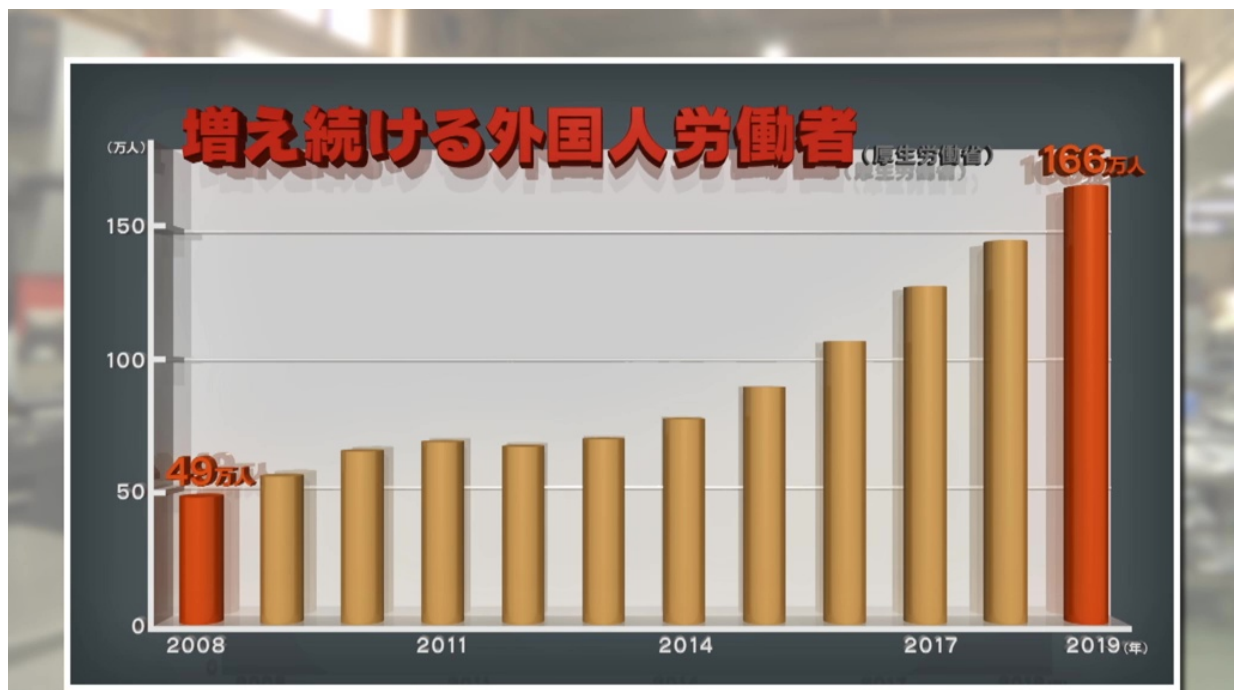
「先生(住職)はオッケーしてくれたので、フェイスブックで困った人、住むところのない人へ呼びかけました」(在東海ベトナム人協会 副会長 ユン・テイ・トゥイ・ユンさん)

そこで、徳林寺の住職・高岡秀暢さんが、困り果てたベトナム人たちに救いの手を差しのべたのです。

「いいですか?と言われたから、いいですよと言ったぐらいで。ある意味では当然だし、若い人が来てくれるのはうれしいです」(徳林寺 住職 高岡さん)



いま、あらゆる分野で日本を支えている外国人労働者。もはや“なくてはならない存在”です。その数もうなぎ登りで、160万人を超えています。



しかし新型コロナウイルスの影響で経済が悪化している今、あっさりと雇用を切られてしまっているといいます。そのため彼らについて、「雇用の調整弁」と表現する専門家も。日本で何年も働いてきた彼らですが、政府からの10万円の給付金ももらえないのではないかと不安を口にします。

この日、米や野菜などさまざまな支援物資が集まっていました。この寺では、全て寄付に頼っています。

「この野菜ももらいました。すごくうれしいです。いろんな人に(支援物資を)お願いします。みんなお金がないから」(在東海ベトナム人協会 副会長 ユンさん)



もともと参拝者のための宿泊施設があったこの寺。4年前に来日したグェンタンタンさん(29)に部屋を見せていただくと。

「この家は無料だから、本当によかったです」(グェンタンタンさん)



愛知県半田市で自動車関係の仕事をしていたグェンタンタンさん。

「1か月に10万円くらいは仕送りしていた。家族のために日本で我慢して仕事していた」(グェンタンタンさん)

両親と兄のために仕送りをしていましたが、今、働けないのが一番苦しいと訴えます。

「(兄が)とても心配している。ベトナムはコロナ(の封じ込めに成功して)大丈夫だから、私が日本にいるので心配しています」(グェンタンタンさん)

寺の手伝い以外は時間を持てあましていうグェンタンタンさん。12人で共同生活し、寄付してもらった食材でご飯を作りますが、寺の台所では肉や魚の調理はできません。



寺を頼るベトナム人はこの先も増え続け、週末にはさらに6人ほど来るといいます。

日本を支えてきた外国人労働者が窮地に陥っているなか、住職を中心にこの困難を乗り越えることはできるのでしょうか。

【「キャッチ！」5月15日放送より】